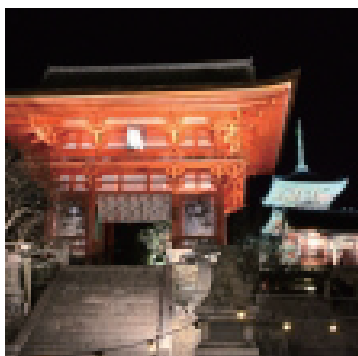


もっと京都が
面白くなります！
京style

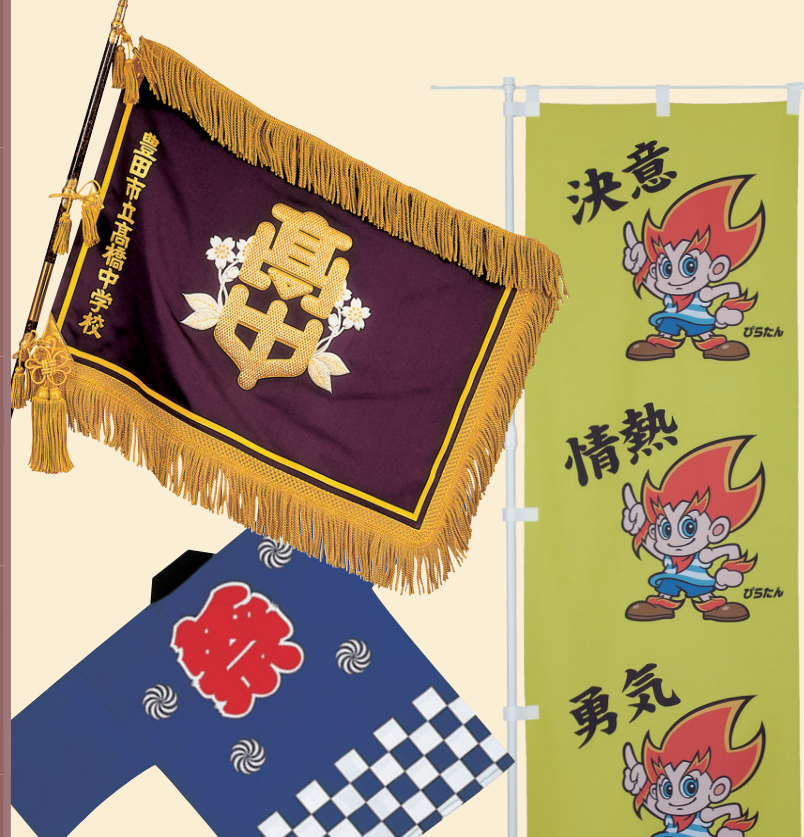


「ぶぶ漬け」

今年も残すところ少なくなってきました。皆様お忙しい日をお過ごしだと思います。これから年末年始にかけて何かと人付き合いが多くなる時期ですが、今回は、京都の人付き合いのしきたり、「ぶぶ漬け」の話をご紹介します。ぶぶ漬けの「ぶぶ」は、「お茶」の意味で、「お茶」だけを指すときは、「おぶう」とも言います。つまり、「ぶぶ漬け」は、「お茶漬け」のことです。京都では訪問した家の方から、「ぶぶ漬けでも、食べていかれますか？」と勧められたら、遠回しに帰宅を促されている合図、というのがあります。暗黙の了解みたいなものですね。ぶぶ漬けを勧めることで、家人の食事の時間帯にさしかかっていること、時間の経過をそれとなく悟らせて、失礼のないように帰りを促す、という意味ですが、実は、京都の人同士ではこういう言葉がやりとりされることは、まずありません。なぜなら、京都人は他所様の家を訪問する時の配慮をととても大切にします。お互いが京都人同士であれば、こういった遠回しな表現をしなくても、「潮時」をいつも意識していますから必要ありません。もし、京都以外からお見えになったお客様に、ぶぶ漬けを勧めても、その意味をご存知でなければ、暗黙の了解になりません。「そうですか、それでは、お言葉に甘えて……」、ということになったら、かえって長居をさせるきっかけを作ってしまう。古典落語の話の中に、京都のぶぶ漬けにまつわる話があるそうです。京言葉の中には、直接的な表現を避けて、遠回しに真意を伝えるという表現があります。そういった表現を好む気質が京都の人にあることも確かです。京都人の特徴をわかりやすく物語る話として、落語にもなったのかもしれない。もちろん、過去に、ぶぶ漬けが、お客様にそれとなく帰宅を促す婉曲的な表現として用いられたことが全くない、とは言えません。いずれにしても、今の京都では「ぶぶ漬け」は、ぶぶ漬けです。よほどお客様が望まれない限り、一般の家で、お客様にお茶漬けを勧めることはありません。逆にお客様に失礼だし、家の恥だ、と考えるほうが一般的だと思います。実は「ぶぶ漬け」の話は京都伝説の一つということです。



HIRAIWA



私たちは皆様と共に
成長していけることを
願っています。



学校の象徴に欠かせない **学校旗**

消防団の士気に欠かせない **消防団旗**

勝利の証に欠かせない **優勝旗**

効果のあるPRグッズの定番は **オリジナルのぼり旗**

イメージUP 戦略グッズの定番は **オリジナルピンバッジ**

地域のお祭りに大活躍する **祭裃**

印旗・横断幕 腕章&タスキ 神社仏閣幕

今すぐ
アクセス！

京都 平岩

株式会社 平 岩

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル

TEL 075-222-1041